

神学校週間をおぼえて

『匿名奨学金』

西南学院大学神学部部長
須藤伊知郎
すとういちろう

私

は神学生の時にさまざまな奨学金をいただきましたが、その中に変ったものがひとつ、ドイツ留学先のエアランゲン・バプテスト教会でいただいた匿名の奨学金がありました。留学して3年過ぎたころ、主日礼拝の後、財務執事さんに告げられました。「これはある兄弟から君への奨学金です。彼は匿名であることを望んでいます。少ないですが、これから毎月同じ額をお渡しする予定です。どうぞ受け取ってください」。

私はびっくりしました。教会の誰かが、奨学金が切れて困っている私を心配して、支援してくださることになったのです。誰だか分かりませんが、私は教会の兄弟姉妹みんなが出してくれるのだと思って、感謝して受け取ることにしました。その奨学金はそれから日本に帰るまで4年間ひと月も欠かさず、続きました。未だにそれが誰だったのか、私は知りません。この「匿名奨学金」は金額こそ小さかったものの、教会の祈りが形になったものとして、神学を学んでいる私を支えてくれました。金額の大小ではなく、誰かが自分のことを覚えていつも祈ってくれているという事実が、私を励まし続けてくれたのです。当時の私はひたすら新約聖書を学んでいました。が、将来その学びがどう生かされるのか、はつきりとした道はまだ見えませんでした。そのような中で希望と喜びをもって学びを続けられたのは、日本とドイツの教会のみなさんの祈りと支えを受けることができたからです。

神学生たちのために、お祈りとご支援をいただきますよう、心からお願ひ申し上げます。



神学生の証し

二つの教えられ方

東京バプテスト神学校神学専攻科学生
丸山 勉 (大泉バプテスト教会推薦)



考えてみれば「神学生」などという言葉は、とても恐れ多い言葉です。「神学」を学ぶ学生という意味だと思いが、文字からすれば「神様の」学生と捉えられなくもない。一般の感覚からはどう聞こえるのだろうか。私はキリスト教放送局FEB Cのスタッフとして32年勤めて来、昨年早期退職をして、東京バプテスト神学校神学専攻科に入学し、来年春に卒業となる予定です。ここでの学びの中で教えられることは2つあります。「神学」などは、人間の頭がいかに極めようとしても途方もなく深いということ、また、牧師の任とは、何か転職するかのようなこととは次元が全く違う厳しさが根底にあるということ。否応なく自らを主の目の前に置かれる日々です。恐れがあります。自信のようなものには全く頼れなくなります。任命を受けたとすれば、その後の不安がよぎります。その中で、でも自分を突き動かしているものに誠実でありたい。主イエス・キリスト、「あなたのほかに私(たち)の幸いはありません」(詩16・2)。そのことを心から信じます。

学びのスタート

九州バプテスト神学校牧師コース1年
桑原伸良 (長崎バプテスト教会推薦)



長崎教会壮年会では、月に1度、学びの会をしています。最初は、「バプテストとは何だろう」ということで、『近代バプテスト派研究』(高野進著)をテキストに学び合い、次に各教派のこと、賛美歌のことを学びました。その中でも、特に、賛美歌が作曲をした人、あるいは作詞をした人の信仰告白であり、証しであることを知ったときから、自然と自身の信仰を見直したい、作り直したい、知識を深めたいと思うようになり、九州バプテスト神学校の本科コースへの入学を決意しました。

課題に追われつつ、無我夢中の3年間が過ぎようとしても、入学当初から思い描いていた「なりたいたい自分の姿」には程遠いことを実感していました。まだ学びたい、まだ足りないと思いついていたときにいただいたのがこの言葉です。

「私が願ひるのは苦しむ人、霊の砕かれた人、わたしの言葉におののく人」イザ66・2

主は、苦しむ人、砕かれた人、おののく人を顧みてくださる方です。求めるべきは、自分の内だけの満足感ではなく、教会や地域や、広くは世界中の他者に向けてさげるための知識であり信仰なのだということに気づかされ、牧師コースへ進む決意を与えられました。

新しい年度が始まり、新しい学びが始まり、つくづく、聖書の学びにはゴールはないことを実感しています。いつも、新しい発見と感動が与えられ、そのたびに喜びが湧き上がり、そのときに喜びが湧き上がり、もつとイエスさまに近づき、より主に仕える業を進めていきたく祈っています。



自分らしさの実

西南学院大学神学部選科三年
吉田尚志 (盛岡バプテスト教会推薦)



諸教会の皆さまのお祈りとご支援を心から感謝いたします。残り1年を切った今、卒業論文作成や教会の働き人として仕える備えの時を、慌ただしくも充実しながら過ごしています。

入学当初、学びについていけるかとても不安でした。初めて出会うさまざまな神学の知識に、ほとんど訳がわからず頭を抱えてしまふ日々が続きました。授業での仲間たちの発題、意見や疑問の持ちかたに自分のレベルの低さを思い知らされては、嫉妬と落胆の繰り返しでした。しかし、仲間と学ぶ中で、仲間もまた各々課題を抱えながら神さまに依り頼み、懸命に学んでいることをまのあたりにさせられました。先生方も、学生たちに愛をもって寄り添い、ご教示くださいました。1人ひとり神さまからの使命に、懸命に生きようとしている姿に心を打たれ、私もまた、自分にできる「神さまへの応答」を精一杯していこうと、新たな気持ちで学びに向かわされたのです。すると少しずつですが、でも確実に「学ぶ喜び」が自分の中に生まれ始めたのです。それは、自分自身にとって思いも寄らない変化でした。

イエスさまは、次のように話されました。「ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞きなさい」(マタ13・8-9)

神さまへの献身は、人との比較でも優劣でもなく、神さまの召しに対する自分自身の応答です。周囲の方々の献身の姿から、ありのままの姿で精一杯、神さまに献げることの大切さと喜びとに気が付かれました。神さまが私たちに委ねられた種を喜んで受け取り、精一杯育み、神さまのみ心になつた「自分らしい実」となり続けて、神さまと隣人に、教会に仕えます。



奨励 《伝道者養成のための神学生奨学金献金と壮年会活動の推進》

杉山修一（東北地方連合壮年会神学校献金推進委員・山形キリスト教会）



昨年9月、2泊3日の日程で、山形キリスト教会と酒田のぞみキリスト伝道所に、北関東地方連合の伝道隊がやって来ました。メンバーの中には青年や女性も入っていましたが、主力メンバーは壮年です。教会や教会員宅に分宿していただき、「教会案内」を手広く配布していただいたり、礼拝の中で讃美や証し、宣教の奉仕を担っていただいたり、分級の学びを導いていただきました。そのようにして学びを共にし、交わりを深めました。

当初、北関東地方連合の伝道隊は、「青年夏期伝道隊」として、青年たちが連合内の伝道所や小さな教会に出かけて行くプログラムから始まりました。それは今も毎年続いています。そのようなミニストリーの中から壮年主体の伝道隊が生まれ、連合の枠を超えて奉仕の働きを担うプログラムへと広がってきました。交通費

は自前、滞在費は受け入れ教会・伝道所持ち、謝礼なしという条件です。このプログラムのよいところは、皆が「当事者意識」を持たされるということです。それぞれが賜物を献げ合い、知恵を出し合って、やる気を刺激されて参ります。そこに、お仕着せでない喜びと感謝が生まれて参ります。

そのような伝道に対する思いが喚起されていく中で、献身の思いが呼び起こされたり、献身者を支える思いが高められていくように思います。神の御業を宣べ伝えることは、人間のなせる業ではありません。神の働きを担うことへと人を招き、心の内にある肉の思いを打ち砕き、信仰の姿勢を正し、整え、用いてくださるのは主なる神です。そのことへの畏れとへりくだりを培う場として、神学生支援（神学生奨学金献金）に取り組む壮年会連合の立ち位置があるのではないのでしょうか。

2015年度神学校週間にあたって 全国壮年会連合副会長（神学校献金推進担当） 野口正俊（志村バプテスト教会）

今年も6月28日（日）より神学校週間が始まります。全国の諸教会。伝道所からの尊い「神学校献金（神学生奨学金献金）」の献げものが、西南学院大学神学部（大学院生含む）、東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校において伝道者を指して学ぶ神学生のために用いられていることに感謝したいと思います。

全国壮年会連合は、① 教会形成、伝道者養成の働きのため壮年同士が相互啓発をはかる。そのための研修、情報交換の実施、「全国壮年大会」の開催を行う。② 日本バプテスト連盟でのキリスト教伝道者をめざし学ぶ神学生のための「奨学金制度」の運営を担う。③ 奨学資金のための「神学校献金（神学生奨学金献金）」の活動を推進する。④ 壮年会連合ニュース、ホームページ等を用いての壮年会活動に関する情報を提供することを主な事業としております。

そのような全国壮年会連合において神学校週間もまた伝道者養成の業への参与の一つとして、大変重要な働きとなっております。

ご存知の通り、無牧師の教会・伝道所が増える傾向にあります。必要とされる伝道者を満たすためには、西南学院大学神学部神学生25名に加えて、連合立等神学校の神学生を奨学金で支えたいと願っております。そのために神学校献金（神学生奨学金献金）の目標を毎年3,000万円としてきました。今年度も私たちは3,000万円へのチャレンジを続けます。

信徒一人ひとり、教会・伝道所一つひとつが神学校週間を覚え「神学校献金（神学生奨学金献金）」の目標額が満たされるよう、皆様方のご協力とお祈りをお願いいたします。さあ、献身し、伝道者への道を目指す神学生と神学校を覚えて祈りましょう。

神学校献金（神学生奨学金献金）の推移

年度	献金額
2008年度	2,490万円
2009年度	2,411万円
2010年度	2,325万円
2011年度	2,345万円
2012年度	2,228万円
2013年度	2,292万円
2014年度	2,284万円

西南学院大学神学部及び東京・九州両バプテスト神学校で学ぶ神学生

神学生氏名（学年、よみ、推薦教会）

【西南学院大学神学部】 24名 <2015年度奨学金貸与者数：21名>

博士後期	柏本隆宏(3年・かしもと たかひろ・福岡国際)、城 俊幸(2年・たちとしゆき・西戸崎)
博士前期	國分美生(2年・こくぶん みお・市川八幡)、河端真理子(2年・かわばた まりこ・福岡新生)、泉 選也(2年・いずみ えりや・野方)、広木 愛(1年・ひろき あい・田隈)、福久織江(1年・ふくひさ おりえ・函館)、青木紋子(1年・あおき あやこ・南光台)
専攻科	米本裕見子(よねもと ゆみこ・南名古屋)
学部神学コース	酒井朋宏(4年・さかい ともひろ・名古屋)、三上 充(4年・みかみ まこと・金沢)、元川信治(4年・もとかわ しんじ・調布)、伊藤真嗣(3年・いとう まさつぐ・相模中央)、遠藤光子(3年・えんどう みつこ・別府国際)、紺田剛孝(3年・こんだ よしのり・田辺)、酒井 信(3年・さかい しん・緑の牧場)、永山辰原(3年・ながやま ときはら・福岡西部)、平野健治(3年・ひらの けんじ・大井)
選科	吉田尚志(3年・よしだ なおし・盛岡)、永松 博(2年・ながまつ ひろし・野方)、宮田祐亮(2年・みやた ゆうすけ・富山小泉町)、横濱峰二子(2年・よこはま ふじこ・札幌)、加山 献(1年・かやまささく・新潟主の港)
大学院研究生	田宮宏介(たみや こうすけ・福岡国際)

【東京バプテスト神学校】 6名 <2015年度奨学金支給予定者数：2名(第1回連盟理事会にて決定)>

神学専攻科	金香泰誠(かねこ ひろのぶ・常盤台)、末盛桜子(すえもり さくらこ・多摩川)、丸山 勉(まるやま つとむ・大泉)、山本弘夫(やまもと ひろお・東京第一)
教会教育専攻科	杉浦優子(すぎうら ゆうこ・藤沢)
教会音楽専攻科	岡村ゆり(おかむら ゆり・奈良)

【九州バプテスト神学校】 7名 <2015年度奨学金支給予定者数：3名(第1回連盟理事会にて決定)>

牧師コース	樺島瑞代(かばしま みずよ・和白)、文 一培(むん いるべ・博多)、尹 正鉉(ゆん じょんひょん・博多)、桑原伸良(くわはらのぶよし・長崎)、香月太郎(かつき たろう・早良)、山時松江(さんとき まつえ・防府)、諸岡 寛(もろおか ひろし・平尾)
-------	---

「神学校献金(神学生奨学金献金)」Q&A (壮年会連合ホームページより抜粋)

Q: 各教会ではどのようにして神学校献金を献げたら良いのですか。

A: 毎年6月に行われる神学校週間を用いて献金される教会・伝道所が多いと思いますが、年間を通して神学校献金を献げているところも増えています。また伝道者養成の業の一つとして本活動の推進を連盟から全国壮年会連合に委ねられていますので、壮年が主体的に働かれることが多いと思いますが、是非教会の皆さまに働きかけていただき教会の業となることを期待しています。なお、具体的な働きは壮年会連合ニュースなどで紹介していますので、是非参考にしてください。

Q: 2013年度から神学校献金の名称が変わったのはなぜですか？

A: 神学校献金は従来から、西南学院大学神学部で学ぶ神学生の授業料と生活費の一部を支えるため、奨学金という形で用いられてきました。更に2012年の連盟定期総会において、西南学院大学の神学部だけでなく、東京バプテスト神学校や九州バプテスト神学校で、牧師となるために学ぶ神学生にも用いられるよう「神学校献金使途拡充」として提案され議決されました。そこで「神学校献金」の使途を明確にするた

め、昨年より「神学校献金(神学生奨学金献金)」という名称に変更いたしました。

Q: 奨学金の内容は何ですか？

A: 西南学院大学神学部神学生には、1種奨学金(授業料や施設費など 校納金)と2種奨学金(生活費補助)を貸与(一部返還の義務があり)しています。尚、東京バプテスト神学校や九州バプテスト神学校の神学生には、両神学校から支給される奨学金の資金として供与していますが、全額、授業料に充てられます(中途退学や伝道者とならなかった場合は、返還義務が生ずる)。

Q: いつも目標に達成していないようですが

A: 西南学院大学神学部神学生の25名を支えることを想定して3000万円という目標を掲げていますが、ここ数年は22名前後のため何とか支援ができています。今後は、東京バプテスト神学校や九州バプテスト神学校の神学生への支援が加わったことや、西南学院大学の授業料値上げなども考慮すると、より一層目標達成のために祈り、献げることが求められます。